Ⓛっかりかんがえ Ⓞもいやりのある Ⓜんななかよし 潮見っ子

光る海 29号

令和５年１２月２０日
校長　惣田 正宏

ホームページ

明後日は「冬至」。夜が一番長い日です。

２学期も残すところ、あと2日になりました。終業式の22日は「冬至」でもあります。ご存知、北半球では、一年の間で昼がもっとも短く、夜がもっとも長くなる日です。古来日本では、ゆず湯に入り、小豆粥やかぼちゃを食べる風習があります。今日の給食は、そのことにちなんで「パンプキンポタージュ」でした。とてもまろやかで甘く、美味しかったです。

さて、今週は今季一番の寒さとなっています。先週は12月で25℃を超える地域もあったのに、気温の変化に驚かされます。特に、明日、明後日は積雪も含めて注意が必要です。せっかくの冬休みです。登下校の転倒によるケガや、厳しい寒さにより体調を崩さないよう気をつけさせてください。本日は、全学年「学力テスト」でした。真剣に問題と向き合い、懸命に頭を働かせている子供たちの表情はいいものですね。

人権学習で学んだことの発表！

インフルエンザの影響で、今年は人権集会を対面ではできませんでしたが、先週水・木・金曜日の昼の放送で、各学年の代表が人権の学びの中から生まれた誓いやスローガンを発表してくれました。内容もよく考えられたものであったし、発表も立派で素敵なものでした。世界では、大きな戦争が２つ起こっています。一番の犠牲者は、何の罪もない子供たちです。世界の英知を集め、心を一つにして止めてほしいと願うばかりです。戦争は、人権が一番守られていない状態です。決して目を背けることなく、耳をふさがず私たちに何ができるかを一緒に考えていきたいものです。

どれも力作ぞろい！（下村脩ジュニア科学賞）

佐世保市教育センターで、先週まで「第１５回下村脩ジュニア科学賞 SASEBO」の作品展が開催されていました。本校からも、１年生〇〇さんの「水がきれいになるろかきをつくろう」、３年生〇〇さんの「月のかんさつ」、６年生〇〇さんの「超閉鎖性海域大村湾の水質」、同じく６年生〇〇さんの「なぜ、体の柔らかさが人によって違うのか」の４名の作品が入賞し展示されていました。ご存知ノーベル化学賞を受賞した下村脩博士。小・中学校を佐世保で過ごしています。受賞を記念しての科学賞も今年で１５回目を迎えました。毎回力作が出品されます。この子たちの中から世界をリードする科学科学者が出てくることを願っています。

ぎりぎりで果敢に攻めたよ！（ハードル走）

昨年に引き続き、市の体育学習派遣事業で、オリンピックに２度出場したことのある田端健児さんが２週に渡って来校されました。そして、陸上（ハードル走）の指導を受けることができました。１学期にも水泳やマット運動で、専門家から指導をしてもらいましたが、今回は、５・６年生が授業を受けました。

６年生は、昨年に引き続きの指導で、覚えていて果敢に攻める児童もいました。体の動かし方やリズムの取り方を教えてもらい、実際ハードルを跳び越していくときには、空中姿勢や、ハードル間のリズムの取り方を分かりやすく教えてもらいました。オリンピック選手から指導を受けることがモチベーションとなっていたようで、懸命に指導を吸収し、上手くなっていました。担任も、指導法や声かけを熱心に記録し、今後の自分の指導が向上するよう一緒に学んでいました。

生活単元学習での魅力的な学び

３組が生活単元学習で取り組んでいた「梅干しづくり」。収穫した梅を使って、梅干しや関連商品ができあがりました。１１日は梅干しのびん詰め作業で、びんの大きさや梅干しの量の違いで値段をいくらにするか考えていました。販売は、翌１２日の昼休み。販売用のチラシも作成し宣伝もしました。宣伝が良かったのか完売したようです。販売して得たお金はクリスマス会の材料を買いに、買い物体験に出かけました。そして、その材料でケーキ作り！いろんな学習の要素が含まれています。魅力的で楽しみながら多くを学んでいるようです。

三行詩コンクール入選作品表彰式

１６日午前、市 P 連主催の「三行詩コンクール表彰式」が清水地区コミュニティセンターで行われました。本校１年生の〇〇さんが優秀賞に選ばれ、表彰を受けました。応募作品は全部で２千点以上あり、その中から２０数点しか入選しません。優秀賞は各学年一人だけです。いい作品だったのでしょう。表彰の時に、その作品も紹介されました。どれも家族の日常風景が詠まれていて、家族の団らんや愛情が感じられる作品でした。

〇〇さんの作品を紹介します。

テレビをけして「いただきます」おかあさん、あのね、きょうは ひるやすみ おにごっこをしたんだよ

夕食の楽しい様子が目に浮かぶようです。

楽しかったふるさと環境・自然体験学習 4年生

１６日午後から、市立図書館で「郷土研究発表会」が開催されました。今年で５２回目を迎える、長年続いている伝統的な発表会です。小中学生７人の発表がありました。

本校４年生の〇〇さんがトップバッターで発表しました。内容は「コンビニの数と地区人口の関係」。100 人近い人が聞きに集まっていました。その中での発表です。表情には表れていませんでしたが、緊張しただろうと思います。発表の支援をお父さんにしてもらったことで、笑顔で発表を楽しんでいたようでした。発表に使うパワーポイント資料も、分かりやすくて立派なものでした。

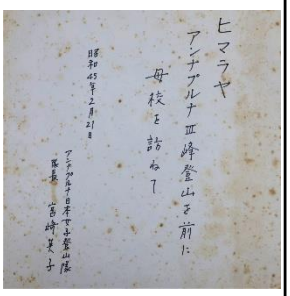
やまずみっこクリスマス会 3・4年生が合唱を披露！

１２月１６日（土）、山澄地区自治協議会と山澄中学校区青少年健全育成連絡会の主催で、「やまずみっこクリスマス会」が開催されました。内容は、幼稚園、小学校の合唱、読み語り、地域からは「ホーリーベルズ」のベルの合奏でした。潮見小学校からは、3、４年生の１３名が出演しました。佐世保市音楽発表会で歌った「スマイル・アゲイン」の合唱です。少人数でしたが、会場に美しい歌声を響かせ、４年生の児童は手話も加えて発表しました。歌の後に行った自己紹介も元気な声で行い、会を盛り上げてくれました。お客さんとして参加してくれた児童もいて素敵な思い出の一つになりました。

「全校読み聞かせ」がありました。

１９日朝の時間に、読み聞かせボランティア「For kid`s」 さんによる全校読み聞かせがありました。学期末に、いつもしていただいています。今回は、日本の昔話「したきりすずめ」のお話でした。６名の皆さんが登場人物や地の文などに分かれて心を込めての読み聞かせがありました。改めて、童話や昔話は読み聞かせが大切だということをしみじみ感じました。読み聞かせを聞くことで豊かな心もちになります。

校長の独り言⑦ ～世界で初めてエベレスト（8,848m）にいどんだ日本女子登山隊～



校長室を整理していたら、古い色紙が出てきました。色紙（右写真）には、「ヒマラヤ アンナプルナⅢ峰登山を前に母校を訪ねて　昭和 45 年２月 21 日 アンナプルナ日本女子登山隊 隊長 宮崎英子」と書かれていました。今から 50 年以上前のことです。気になって調べてみました。色紙に書かれている通り、同年５月 17 日、宮崎さんを隊長とする日本で初めての女子だけの登山隊が、ヒマラヤ アンナプルナⅢ峰（7,555m）の登山に成功します。そして、５年後の 1975 年５月 16 日には、世界最高峰のエベレストに女性だけの登山隊（この時も隊長は久野（旧姓宮崎）英子さん）で挑みました。

この時のことを紹介している新聞を発見しました。見出しは「日本女子登山隊は女性として世界で初めての登頂に成功！」とあり、隊長の久野さんらの写真が載っています。記事には、「登頂したのは、田部井淳子副隊長とサーダー（シェルパ頭）の二人。二人は 16 日朝、最終キャンプ地（8,500m）を出発、酸素マスクをつけながら氷岩を登りつめ、午後零時三十分に雪におおわれた世界最高峰の頂上に達した。久野隊長は、天候さえよければ一両日中にもう１隊、登頂攻撃に送り出すと言っている。」とあります。日本女子登山隊は、第２キャンプで雪崩に巻き込まれ、13 人が重軽傷を負い、女性初登頂は絶望的と報じていた中での快挙でした。当時の登山はまさしく命がけで、女性だけでできるはずがないという世論が大勢でした。後世、名前が残るのは、世界初女性でエベレストに登頂した田部井淳子さんです。でも、アンナプルナやエベレストに挑んだ日本女子登山隊の隊長は、潮見小出身の宮崎（後に久野）英子さんであることをとても誇りに思います。厳しい世論の中で最後まであきらめなかったその行動力。隊長として過酷な登山でけが人も出て…、仲間の命を背負い、その判断の苦しさはいかばかりだったでしょうか。こんな先輩がいることを子供たちに知ってほしいと思いました。